

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	大学の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ホッカイドウムサンジヨシガクエン 学校法人 北海道武蔵女子学園									
フリガナ大学の名称	ホッカイドウムサンジヨシダイガク 北海道武蔵女子大学 (Hokkaido Musashi Women's University)									
大学本部の位置	北海道札幌市北区北22条西13丁目1番地3									
大学の目的	予測が難しい環境においても、現代的な知を共有し、豊かな想像力、構想力、実践力を持ち、多様な価値観や視点を持つ人々と対話・連帯する力で社会を明るくする人材を養成することを北海道武蔵女子大学の目的とする。									
新設学部等の目的	豊かな想像力、構想力をもって課題を発見・解決する能力を有し、他者の価値観や視点を理解し、対話・連帯することで協働を促進し、グローバル展開する高度情報社会に対応した知識・技能と経営に関する専門的な知識とビジネスを企画・実践する能力を有した人材の養成を目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	経営学部 (Faculty of Business Administration)	4	80	3年次	330	学士 (経営学) (Bachelor of Business Administration)	年月 第 年次 第1年次	北海道札幌市北区北22条西13丁目1番地3		
	経営学科 (Department of Business Administration)			3年次			令和8年4月 第3年次			
計	80	5	330							
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	北海道武蔵女子短期大学 経済学科（廃止）（△80名） ※令和6年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	経営学部 経営学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設	経営学部 経営学科	9 (6)	5 (5)	2 (2)	2 (2)	18 (15)	0 (0)	30 (13)	
	計		9 (6)	5 (5)	2 (2)	2 (2)	18 (15)	0 (0)	- (-)	
既設	該当なし	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
計		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)		
合計		9 (6)	5 (5)	2 (2)	2 (2)	18 (15)	0 (0)	- (-)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
			人		人		人			
	事務職員		20 (20)		2 (2)		22 (22)			
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員		2 (2)		2 (2)		4 (4)			
その他の職員		0 (0)		8 (8)		8 (8)				
計		22 (22)		12 (12)		34 (34)				

北海道武蔵女子短期大学と兼務

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			北海道武蔵女子短期大学 (必要面積6,000㎡)と 共用 運動場用地は北海道武蔵 女子短期大学と共用		
	校 舎 敷 地	0㎡	18,979.70㎡	0㎡	18,979.70㎡					
	運 動 場 用 地	0㎡	6,712.61㎡	0㎡	6,712.61㎡					
	小 計	0㎡	25,692.31㎡	0㎡	25,692.31㎡					
	そ の 他	0㎡	26,014.44㎡	0㎡	26,014.44㎡					
合 計	0㎡	51,706.75㎡	0㎡	51,706.75㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			北海道武蔵女子短期大学 (必要面積4,650㎡)と 共用		
		0㎡ (0㎡)	14,792.85㎡ (14,792.85㎡)	0㎡ (0㎡)	14,792.85㎡ (14,792.85㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体 北海道武蔵女子短期大学 と共用		
	16室	13室	1室	2室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数			全専任教員に個別 研究室を付与		
		経営学部 経営学科			18 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定 不能なため、大学 全体の数		
	経営学部	188,786 [19,090] (184,700 [18,748])	250 [45] (250 [45])	1 [0] (1 [0])	4,969 (4,837)	0 0	0 0			
	計	188,786 [19,090] (184,700 [18,748])	250 [45] (250 [45])	1 [0] (1 [0])	4,969 (4,837)	0 0	0 0			
図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		1,535.37㎡		119席	154,000冊					
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		2,086.89㎡		テニスコート2面 ゴルフ練習場						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電 子ジャーナル・ データベースの整 備費(運用コスト 含む)を含む	
	教員1人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円	—	—		
	共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—	—		
	図書購入費	2,810千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	—	—		
	設備購入費	31,000千円	14,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—	—		
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,180千円	1,025千円	1,025千円	1,025千円	—	—				
学生納付金以外の維持方法の概要			経常費等補助金、雑収入、受取利息・配当金等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	北海道武蔵女子短期大学							※令和4年度 入学定員減 (英文学科) (△20人) ※令和6年度より 学生募集停止 (経済学科) (△80人)	
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開 設 年 度		所 在 地
	教養学科	2	200	—	400	短期大学士 (教養)	0.85	昭和42年度		北海道札幌市北区北 22条西13丁目1番地3
	英文学科	2	100	—	220	短期大学士 (英語英文)	0.69	昭和49年度		同上
経済学科	2	80	—	160	短期大学士 (経済)	0.64	平成7年度	同上		
附属施設の概要		該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

専門基礎科目	経済学基礎	1後	2			○			1									
	会計学基礎	1後	2			○			1									
	法学基礎	2前	2			○			1									
	デザイン基礎	1前	2			○			1									
	小計 (6科目)	—	12	0	0	—			6	0	0	0	0	—	—			
	専門基礎科目	経営組織論 I	1後	2			○				1							
		経営戦略論 I	1後	2			○			1								
		デジタルマーケティング	2前	2			○			1								
		企業論	2前	2			○			1								
		消費者行動論	2前	2			○				1							
		D X 論	2後	2			○			1								
		心理学	1後	2			○				1							
		ビジネス心理	2前	2			○				1							
		マクロ経済学 I	2前	2			○			1								
		ミクロ経済学 I	2前	2			○			1								
		行動経済学	2・3後	2			○			1								
		流通論	2・3後	2			○				1							
		サービス産業論	3・4前	2			○			1								
観光学		3・4後	2			○			1									
ビジネスデータサイエンス演習		2前	2			○										兼1		
簿記 I		1・2前	2			○										兼1		
財務会計		2前	2			○			1									
民法	2・3後	2			○			1										
小計 (18科目)	—	24	12	0	—			11	5	0	0	0	兼2	—				
専門実践科目	リーダーシップ開発演習 I	1前	2			○				1								
	リーダーシップ開発演習 II	1後	2			○			1									
	リーダーシップ応用演習	2前	2			○				1								
	ブレゼミナール	2後	2			○			8	5	2	2				オムニハ ^ス		
	ファシリテーション入門	3・4前	2			○				1								
小計 (5科目)	—	8	2	0	—			9	8	2	2	0	—	—				
専門発展科目	経営組織論 II	2・3前	2			○										兼1		
	経営戦略論 II	2・3後	2			○										兼1		
	マーケティング・コミュニケーション	2・3後	2			○				1								
	人的資源管理論	2・3後	2			○						1						
	教育経営論	2・3後	2			○					1							
	経営倫理	3・4前	2			○				1								
	経営史	3・4前	2			○						1						
	グローバル経営論	3・4前	2			○			1									
	ベンチャービジネス論	3・4前	2			○			1									
	コミュニティビジネス論	3・4後	2			○			1									
	コーポレートガバナンス論	3・4後	2			○										兼1		
	社会心理学	2・3後	2			○						1						
	心理学研究法	3・4前	2			○						1						
	デザイン論	2・3前	2			○			1									
	データサイエンス・AI応用	2・3後	2				○			1								
	ウェブデザイン演習	2・3後	2				○									兼1		
	デザイン表現演習	3・4前	2				○		1									
	マクロ経済学 II	3・4前	2			○			1									
	ミクロ経済学 II	3・4前	2			○			1									
	財政学	3・4後	2			○										兼1		
	国際経済学	3・4後	2			○										兼1		
	金融論	3・4後	2			○										兼1		
	簿記 II	1・2後	2			○										兼1		
財務分析	2・3後	2			○			1										
管理会計	3・4前	2			○										兼1			
取引法・消費者法	3・4前	2			○			1										
3年専門ゼミナール	3通	4				○		8	5	2	2							
4年専門ゼミナール (卒業論文含む)	4通	8				○		8	5	2	2							
小計 (28科目)	—	12	52	0	—			25	13	6	7	0	兼9	—				

合計 (98科目)		—	81	115	0	—	57	44	16	14	0	兼41	—
学位又は称号	学士 (経営学)	学位又は学科の分野			経済学関係								
卒業要件及び履修方法					授業期間等								
必修科目81単位、共通教養教育科目の基礎教養・コアの選択科目(スポーツを除く)から10単位、専門発展科目の選択科目から24単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間)) なお、専門教育科目の専門基幹科目のうち6科目(サービス産業論、観光学、流通論、行動経済学、簿記Ⅰ、民法)から6単位を選択必修とする。					1学年の学期区分			2期					
					1学期の授業期間			15週					
					1時限の授業時間			90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授業科目の概要			
(経営学部経営学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初年次ゼミナールⅠ	本講義は、学生それぞれの高校からの学びや興味関心を、大学での学びに接続させ、より充実した4年間を過ごすための土台作りをすることを目的とします。高校時代に力を入れて取り組んだことや現状の課題認識、探究型学習の内容をふりかえり、図書館での資料のサーベイと専門の先生方のアドバイスによって、大学で新たに組み込んでみたい研究テーマについて模索し、4年間の学修計画を作成することを目標とします。	
	初年次ゼミナールⅡ	本講義の目的は、各自の研究テーマに関する問題関心の拡大をはかるとともに、スタディスキルズ（読む・書く・要約する・調べる・発表する）を総合的に実践することを目的とします。具体的には、ゼミナールの指導教員の専門分野の初学者向けのテキストを読み、トピックスを理解し、レジュメを作成します。学んだ知識をもとに文献調査を行い、各自の関心で小テーマを設定し、文献やデータをふまえてレポートを作成し、その内容を個別に発表することでスタディスキルズを身につけることができます。	
	論理的思考と文章表現	本講義は、相手にわかりやすく伝えるための文章作法を身につけるために、ロジカルシンキングとロジカルライティングの手法を学ぶことを目的とします。具体的には「社会的な問題」をテーマとした、論理的な文章です。課題を明確に設定し、その解決法を見出すというスタイルで、複数回の文章実践を行います。卒業論文作成の基盤となる力を身につけることができます。	
	プレゼンテーション技法	パブリック・スピーキングの経験を積みます。聞き手の立場に立った話の組み立て方や言葉の選び方はもちろん、いかに「臨場感」ある発表をするか、といったことについて、段階的に習得していきます。複数回の発表実践を行います。人前で話すことに慣れることが重要です。与えられた時間の中で、いかに自分のことを効果的に伝えるかを、身振り手振りをまじえて実践します。ここで得た力は、ゼミナールあるいは講義・演習における発表やディスカッションを行う際の基盤となる力を身につけることができます。	
	韓国語入門Ⅰ	韓国の文字である「ハングル」を基本から学びます。韓国語の発音を繰り返し口頭で練習することで、韓国人らしい発音を身につけ、自己紹介、簡単な意思疎通ができるようにします。クラスメートとペアを組んで、会話の練習をするなど、楽しい雰囲気の中で韓国語を学び、韓国に対する理解を深めます。「ハングル」をしっかりと読み、書くこと、学んだ表現をしっかりと使えることを目標とします。	
	韓国語入門Ⅱ	韓国語Ⅰで習ったことを活用しながら、さらに、日時、時間、食堂での注文、買い物でのやりとりなど、日常生活で利用できる韓国語会話の表現を学びます。クラスメートとペアを組んで、会話の練習をするなど、楽しい雰囲気の中で韓国語を学び、韓国に対する理解を深めます。発音の方法や要領をしっかりと身につけ、初級レベルの「読む」「聞く」「書く」「話す」といった応用力を身につけることを目標とします。	
	数学入門	自然科学や社会科学の学びを深めるには数理（数学の知識、数をイメージする能力）が欠かせない。本講義では、数値を表現し、数値データをイメージし、モデル化するための基本となる数学知識を学ぶ。社会、経済に関連する応用事例をなるべく含めながら、データサイエンスを扱うために必要な、指数、対数、微分・積分、多変数関数、行列、確率・統計などの数理の基礎について学ぶ。尚、それぞれの学修進度に合わせて予習や復習がしやすいように、Google Classroomを用いた遠隔授業（オンデマンド型）で実施する。	メディア
	中国語入門Ⅰ	初めて中国語を学ぶ学生を対象とします。中国語の発音とその表記法（ピンイン）を学び、特に四声に関して、徹底した指導を行いません。その際、学習者に苦手意識を持たせぬよう、日常に役立つフレーズや文法事項を分かり易く解説しながら、学習者が中国語を話すことに楽しさを感じられるよう留意します。初歩的な中国語の発音や簡単な日常会話のリズム、または基本語順に慣れ、中国語の基礎的能力の学習を目標とします。	
	中国語入門Ⅱ	中国語Ⅰを学習した学生を対象とします。正確な発音を心掛けつつ、基本的な文法項目および語彙を学びながら実践的な表現力の習得を目指すとともに、日常会話のみならず、バイト先や卒業後の仕事先などで使用する表現の学習を通して、基本的なコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。発音の方法や要領をしっかりと身につけ、初級レベルの「読む」「聞く」「書く」「話す」といった応用力を身につけることを目標とします。	

<p>哲学入門</p>	<p>本講義では、現代社会にひそむ哲学的な問題を取り上げ、哲学者の理論とそこで展開された議論を紹介することで、哲学的思考によって得られる思索と精神を理解し身につけることを目的とします。ギリシャ哲学・中世及び近代西洋哲学、インド哲学及び中国哲学等を代表する哲学者の思想を学び、人の生き方やその尊厳について、どのような根拠をもって説いたのかを考えます。まずは、ふだん当たり前のように感じていることに対して疑問を投げかけるところから出発します。哲学の概念枠組みを通して現実を分析することで現れる、日常生活の中の問題について考察します。</p>	
<p>歴史学入門</p>	<p>歴史を学ぶことは、現在の生活に結び付く。現在の私たちを出発点として、私たちが自然と抱く感情や世界観が生まれた時代背景を探っていきます。この科目では、通史を原則としつつも、歴史の表面をなぞるのではなく、特定の時代や分野に重点を置き、日本史の通史や全体史を意識した内容とします。また、視点を日本国内のみに閉ざさずに、世界史の展開に目を向けながら、日本と世界の歴史の基礎を学びます。歴史意識というもののさまざまな世界観にも触れ、歴史を知っていくための枠組みを、具体例を挙げながら考察します。講義を通じて歴史学のものの見方を身につけることができます。</p>	
<p>文学入門</p>	<p>本講義では、近現代の日本文学の主な作家と作品に触れ、小説の形式・内容がこの80年間に作家たちの努力によって切り開かれたものであることを知るとともに、文学研究の手法を理解します。明治・大正期の日本文学史の基礎的な知識を得ると同時に、近代小説の読解法を学びます。講義を通じて近代小説の読解法を身につけることができます。</p>	
<p>社会学入門 (フィールドワーク入門)</p>	<p>社会学入門では「フィールドワーク」という各現場に赴く調査研究を学ぶ。前半はフィールドワークを使った多様な学問分野の理論とケースからフィールドワークの理論を学び、手法を修得します。具体的にはシカゴ学派社会学から都市社会学への系譜を学び、文化人類学、観光人類学、そして経営・経済研究での多様な展開について考察します。後半は全体でのフィールドワークとグループあるいは個人でのフィールドワークを実践し、その成果についてプレゼンテーションを行う。講義を通じてフィールドワークの様々な手法を身につけることができます。</p>	
<p>政治学入門</p>	<p>本講義は、現代の国際社会がどのようにになっているのか、国際社会の一部である日本はそこでどう位置づけられるのか、そして日本は今後の世界とどう向き合うべきなのかについて、考えるための材料を提供することを目的とします。特に、国際政治学や政治理論の知見の解説を通じて、現代世界の事実の確認を超えた、より深い理解を目指して講義を進めていきます。講義を通じて、政治学の基本的な知見を身につけることができます。</p>	
<p>教育学入門</p>	<p>本科目は、教育学の基本的な知識を獲得し、教育における今日的な課題について考察する力をつけることを目指します。教育思想や公教育制度の成り立ちといった教育の歴史、人の発達段階や学習メカニズムといった教育の心理学、また不登校・いじめなどの今日的な課題や生涯教育の理念など、幅広いテーマを通じて人間のより良い成長と、それを支える社会のあり方について考えます。前半は講義形式を中心に、後半はグループワークを中心とする演習形式で学びます。</p>	
<p>環境学</p>	<p>地球温暖化をはじめ、環境問題は現代を生きる私たちの生活に深く関わっています。この講義では、なぜ環境問題が発生するのか、さらにその解決に向けてどのような政策がとられてきたのかについて、環境問題の領域ごとに、経済や社会の仕組みとの関係から解説します。環境問題についての基本的な知識を得ること、企業活動や市民生活と環境問題のかかわりを理解することを目標とします。講義を通じて環境問題の基本的な知識、企業活動や市民活動と環境問題に関する知識を身につけることができます。</p>	
<p>映像と文化</p>	<p>映画は、19世紀末に誕生し、20世紀を通じて大きな発展をとげた表現・芸術です。本講義では、アメリカ映画を対象に、映画のもつ魅力と驚きについて考えます。まず、映画の基礎文法・専門用語を学び、ついで作品を実際に観ながら分析を学んでゆきます。多くの作品を見ることで、映画という芸術表現における固有の問題を考えると同時に、アメリカという国の歴史や文化、現在の我々が生きている世界との繋がりとといった映像と文化のもつ複雑で豊かな関係を考える力を身につけることができます。</p>	

	芸術と文化	近代以降の社会において、芸術と文化がどのように関係しながら発展してきたかを概観します。現代社会における私たちの生活は芸術的表現およびデザインによって支えられているとも言え、日常生活との関わりを中心に様々な事例を紹介しながら講義を進めます。視覚的イメージと生活の関わりについてはポスターやCMなどのメディアを取り上げ、社会的背景とデザインの関わりについては、機能主義、素材からの表現や自然からの表現について考察します。講義を通じて芸術と文化の関わりについて理解する力を身につけることができます。	
	スポーツ	様々な種目を経験し、自主的・実践的に取り組み、ルール・技術の知識・理解の習得に努める。スポーツをとおしての健康づくりを考えるとともに、多様性の観点からインクルーシブ教育を取り入れ、「生涯を通じて、いつでも、どこでも、誰でも」多目的のスポーツを親しむことを実践することを目的とする。講義を通じて様々なスポーツを知り、他者との連帯感や集団における個性の発揮など精神的な充足や楽しさを味わう力を身につけることができます。	
キャリア・コア	武蔵のキャリア教育	「はたらくこと」「いきること」を考えるための基本的な情報を得るのみならず、本学が開学以来重視してきた礼節・ビジネスマナーについて学ぶことで、キャリア形成意識の醸成を図ることを目的とします。講義前半は、自立した社会人としての常識やマナーを学ぶとともに、大学4年間をどのように過ごし、自身の将来につなげていくかを考えます。講義後半は、ビジネスマナーの講師による講演と演習を中心に、職業観を醸成するとともにビジネスマナーを身につけることができます。	
	インターンシップ	本講義は、キャリア教育の一環として、インターンシップを進路選択やキャリア形成に役立てることを目的とした、個人単位で参加するインターンシッププログラムです。履修登録をした学生は、まず事前学修でインターンシップの目標の作成および自己紹介の準備を行う。次に個人でエントリーした5日以上のインターンシップに参加する。最後に事後学修として振り返りと経験談を共有するグループワークを実施する。一連の学びを通じて、キャリア形成力を身につけることができます。	
	ジェンダーとキャリアⅠ	本科目では、グローバル時代とともに変化していく社会におけるキャリア形成についてより国際的で深い知識を身につけます。具体的には、第一に、キャリア形成の基礎理論を学んだ上、第二に、キャリア形成における社会問題と企業の取り組み事例、第三に、女性のキャリア形成の国際比較について学ぶ。そこで基礎理論のみならず、学生が主体的にグループワークでディスカッションをすることにより、自分自身のキャリアについて新たに国際的な視点で考察します。	
	ジェンダーとキャリアⅡ	「ジェンダーとキャリアⅠ」で学んだキャリア論やマクロ的な考察をふまえて、女性を取り巻く今日的な課題や性的多様性、社会における平等と公平について関心をもち主体的に考える力を身につけます。具体的には、実社会において多様な働き方、生き方を実践しているゲスト(特別講師)をお招きし、ゲスト(特別講師)との対話を通じて、多様な意見や考え方を知り、そこから新たな発見や気づきを得ることを目指します。	
	キャリアデザイン	大学生活を通じた様々な経験を具体的な進路に結びつけ考察することで、主体的に自己のキャリアを選択・決定できる能力を身につけることを目的とします。第1に、各業界の専門家や企業の担当者のパネルディスカッションを実施し、業界や職種への理解を深める。第2に、グループワークによる相互学習によって、日頃の学問研究、インターンシップやその他の課外活動、アルバイト経験などが、実際の職業や職種にどのように接続するのかを考え、自らのキャリアについての考えを深めます。第3に、就職活動の準備として履歴書の書き方や面接対策なども実施します。	
	情報基礎	本講義は、大学での学生生活および研究活動のために欠くことのできないコンピュータとインターネットのリテラシーとして、情報倫理・研究倫理の知識、情報探索・情報活用の方法を身につけることを目的とします。グループウェア等の利用方法のスキルを得るとともに、情報倫理、情報セキュリティの知識を学び、倫理的な行動をとれるようになることを目標とします。また情報社会の中で情報がどのように活用されているかを学びます。	

データサイエンス・AI入門	データサイエンス技術、およびその一種である人工知能(AI)技術は、今や業種の垣根を超えたデータ分析の道具として活用されている。世界のデジタル化、グローバル化に伴い、データとデジタル技術を活用してビジネスのモデル自体を変える「デジタルトランスフォーメーション(DX)」が我が国の持続的な発展に必須として、経済産業省(2019)は「数理・データサイエンス・AI」を全ての大学生の素養とすることを求めている。本講義では、データサイエンス技術およびAI技術の実社会での利用事例の紹介をもとに、データサイエンス、AIによってどんなことが実現できるのか、一方でどのような問題点があるのかを学び、主にデジタルマーケティングに関するビジネスの企画力のための基礎知識を身に付ける。授業では毎回の説明中に時間をとり、受講者同士の意見交換によりデータサイエンス、AIの活用方針や課題を考察する。	
データサイエンス・AI基礎	高度情報社会における課題解決には、社会のデータを読み取り、分析から傾向を把握し、未来を予測する必要がある。データサイエンスや統計学はこのための基本的な技術である。本講義では実世界とそのサンプルとして抽出されたデータをどのように読み取り、どのように情報処理をして、どのような方法で価値のある事実を導き出すかを、データサイエンスや統計学の基本的な理論にもとづいて学ぶ。授業では身近な事例を対象として方法に触れ、コンピュータ等を用いて実際にデータや統計的指標を確認することで、受講者がより実践的にデータサイエンス、統計学の概念を理解し、実例を挙げて説明できることを目指す。	
データエンジニアリング基礎	データエンジニアリングは、データサイエンスを支える情報処理技術である。今日のデジタル社会では情報システム・経営システムによって日々大量のデータを蓄積、統計され、Webを通じて通信・連携されている。プログラミングおよびデータエンジニアリングは、業種の垣根を超えて活用されつつあるデータサイエンス、AIの発展にともない、全ての社会人に必須の基盤知識・素養であると認識されつつある。本講義ではデータエンジニアリングのためのプログラミング技術、データベース技術、Webアプリケーション技術について学ぶ。授業では実際にコンピュータやデータベース管理システム、Webサーバを利用し、プログラム、データベースによってデータを自由自在に取り扱い、Webを通じて情報発信するための基礎的な技術を身に付けることを目指す。	
オフィスツール応用	本講義は、Excelの高度な機能を利用して、ブックの管理や入力規則、条件付き書式の設定、検索関数や条件にあうデータのみを対象に計算を行える高度な関数の利用、ピボットテーブル・グラフを活用したデータ分析や評価など、Excelを使って、さまざまなデータ処理を行えるようになることを目的とする。関数の応用を修得し、ExcelのMicrosoft Office Specialist資格の上位資格である Expertを取得する力を身につけることができます。	
ITパスポート演習	本講義は、情報処理技術者試験の一区分である国家試験となっている「ITパスポート試験」の資格取得を目的とします。資格取得のための学修を通じて、IT業界への就職希望者のみならず、多くの産業がITとの関りが深くなっている現代において、共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を身につけることができます。	
総合英語 I	総合英語 I は、英語の 4 技能（読む・聞く・話す・書く）のバランスの取れた実力を向上させることを目的とします。最終目標は、身につけた 4 技能を用いて英語で専門科目の授業を受講し、また、自分の意見を発信することです。本科目ではその基礎力を養成し、英語でコミュニケーションをとる姿勢を育みます。	
総合英語 II	総合英語 II は、総合英語 I で身につけた英語の 4 技能（読む・聞く・話す・書く）をさらに向上させることを目的とします。英文を読む、聞くだけの受動的な英語学習から脱却して、積極的に当該テーマについて英語でディスカッションを行い、将来英語で専門科目を受講するための素地を培います。	
ビジネス英語 I	ビジネス英語 I では、ビジネスの世界で日常的に使われる英語表現を修得しながら、国際的な職場環境で必要とされる英語コミュニケーション能力を養うと共に、国際業務の基本的な流れを学びます。日常的に使われるビジネス英語表現を覚え、使えるようになるとともに、英語でビジネスに関するコミュニケーションが行える英語運用能力を身につけることができます。様々なビジネスシーンを題材に学習することで、海外と関わりのある仕事をするための 国際ビジネスマナーを学びます。	
ビジネス英語 II	ビジネス英語 II では、ビジネスの世界で日常的に使われる英語表現を修得しながら、国際的な職場環境で必要とされる英語コミュニケーション能力を養うと共に、国際業務の基本的な流れを学ぶビジネス英語 I での知識を定着させ、国際ビジネスにおける英語での対応力を養います。各種ビジネスシーンにおける英語での交渉、プレゼンテーション、会議等でのロールプレイ、英語でのビジネスレターなど、英語でビジネスを行うための様々な表現方法を身につけることができます。	

International business for women in English	本講義は、国際社会での活躍を目指す女性を対象にした国際ビジネスに関するオンライン講義と、その講義を理解するための事前準備を組み合わせたものです。オンライン講義は海外のビジネス担当講師(特別講師)による英語をベースとした講義です。また英語による講義を受講する前に、講義を十分理解するための準備講義を行い、英語表現や基礎知識を確認する。講義を通じ、国際社会で活躍する女性に求められるビジネス知識、英語力、表現力を養うと同時に日本とオーストラリアを経営/経済/貿易の観点から比較し、論理的思考、データ分析力、日本及び世界経済についての基礎知識を身につけます。	
メディアの英語	本講義は、英語ニュースを題材として、国内外の時事問題を英語で理解し、それについて英語で自分の意見を発信できることを目的とします。教材は、テキストの他に最新の英語ニュース音声や動画を活用し、国内外で今何が起きているかをリアルタイムで把握できるように、学びを深めていきます。BBCのような世界的なニュースメディアの発信情報を視聴し、概要を理解できる力を身につけることができます。	
英語プレゼンテーション	「英語プレゼンテーション」はすべて、学生が自信をもって効果的なプレゼンテーションをおこなうための技能を修得することを目的とする。実践に重点をおく講義であるため、学生は学期中に複数のプレゼンテーションを行います。また、よい質問の仕方や積極的な聞き手になる方法を学び、リスニングの力を向上させる。国際会議等において英語による質疑応答をこなすことができる力を養成します。	
English Exam A (英検)	英検の準一級の問題演習を通じて高校卒業段階の次の段階へ英語力を伸ばしていくことを目指します。具体的には、英検準一級のために必要な語彙と語法に関する知識、論理的な英文を作成する力、広範囲のトピックや分野に関して英語で読解し、表現する力を養成します。講義を通じて、英検準一級を取得する力を身につけることができます。	
English Exam B (TOEIC)	TOEIC L&Rの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力など総合的な英語力を伸ばし、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学ぶ。日常的な会話からビジネス英語まで、毎回テーマに沿ったユニットで学習します。講義を通じて、TOEIC試験で500点以上の得点する力を身につけることができます。	
ビジネス英語海外研修A	本実習は、海外の高等教育機関で約3週間行われるビジネス英語海外研修プログラムです。ビジネス英語を中心とした英語学習者向けのプログラムに参加し英語運用力を伸ばすと共に、国際ビジネスに必要な知識やマナーを身につけることができます。さらにフィールドワークや異文化体験を通じて、国際的視野を広めます。十分な英語力があれば、海外でのインターンシップにも参加できます。	
ビジネス英語海外研修B	本実習は、個人単位で参加する約3週間のビジネス英語海外研修プログラムです。海外の高等教育機関でビジネス英語を中心とした英語学習者向けのプログラムに参加し、英語運用力を伸ばすと共に、国際ビジネスに必要な知識やマナーを身につけることができます。十分な英語力があれば、海外の学校で経営関連の専門科目を受講し単位を取得することや、海外インターンシップに参加することも可能です。	
経営学基礎	本講義は、経営学が人の経済行為の中で生じ、社会的な機能・役割を果たし、環境の変化に合わせて進化してきていることを学ぶことを目的とします。まず、経済社会がどのようなものであるかを学び、人々の経済活動としての工夫の歴史を学ぶ。第2に、社会的要請のなかから生まれた経営学を古典理論、新古典理論、近代理論に分類し、その基本的な考え方を学ぶ。第3に、日本の経営環境における問題に目を向け、現代の企業課題である企業の社会的責任、ステークホルダー論について学びます。	
マーケティング基礎	マーケティングは顧客のニーズを満たす製品・サービスを提供し、競争優位を構築するための市場戦略であり、ビジネスにおいて不可欠の活動です。この授業では、マーケティング戦略論の視点から、具体的な事例を豊富に紹介しつつ、マーケティングの基本的な考え方や概念・理論を説明します。合わせて、テーマに則したニュースの解説やディスカッションを通じてマーケティングの理解を深めます。この講義を通じて、市場戦略としてのマーケティング理論を体系的に学び、顧客との関係づくり、競合他社との競争の仕方を考える視座を得ることを目的とします。	

専門基礎科目

経済学基礎	本講義の狙いは、経済学の基礎的な学びを通じて、企業経営や会社実務を大きく左右する経済・社会の潮流を知る力を身につけることにあります。講義形式で経済学の基本的な用語を学び、ミクロ経済学、マクロ経済学、経営学の位置づけを理解するだけでなく、経済・社会をめぐる大きな潮流として生産年齢人口の減少やグローバル市場のリスク等をテーマに、グループワークやプレゼンテーションを実施します。経営学部の専門基礎科目として位置づけられ、この学びがミクロ経済学、マクロ経済学、行動経済学等の専門基幹科目へと繋がっていきます。	
会計学基礎	会計情報は経済社会における適正な意思決定のための基盤情報です。この講義では、現在企業が公表している会計情報を理解するための基礎として、どのような会計情報がどのように公表されているのか（実際に企業が公表している会計情報の実態）、なぜ会計情報の公表が求められるのか（開示制度をはじめとする会計法制度）、公表された会計情報をどのように読み取るのか（公表会計情報の基本的な構造と意味）を学びます。学生には、提示された課題に基づき、自ら、調べ、報告することが求められます。また、グループでの調査・報告の作業があります。	
法学基礎	この科目では、法学の基礎的事項（たとえば法の種類や裁判）に関する知識を習得し、法学の全体構造を把握することを目的とする。日常におけるさまざまな場面を想定し、法的な問題としてどのように捉えられるかを考察する。例えば、交通事故が起こったとき、刑事責任のほかに民事責任にも問われる可能性が有ることや、消費者問題において、民法の他に消費者契約法も関係してくることもある。このような法の全体的な仕組みを身につけることができます。	
デザイン基礎	生活の中のさまざまな場面で目にするデザインへの興味・関心をきっかけとして、デザインの基礎としての技術とそれを効果的に活用するための理論を、理解～目的の整理～コンセプトの立案～可視化という一連のデザインプロセスにそった講義と演習によって学ぶ。データの分析と視覚化、ピクトグラムやグラフィックシンボル、レイアウトデザインを基本とした情報伝達のための表現手法とその活用を通しその可能性を体験する。グラフィックデザインおよびその表現手法を分析的に観察、意味の可視化の理解を通じて、作品として発表する力を身につけることができます。	
経営組織論 I	現代企業は多様な個性や能力を持った人々の集合によって形成されています。経営学は、そのような人々の集合を「組織」として捉え、管理の対象としてきました。本講義では、多様な側面をもつ経営組織を、管理、個人、環境、学習という4つの観点から考察し、実際の経営組織における問題を発見し、解決策を考案できるようになることを目標とします。前半は、主に「人と組織」の関係に着目し、後半は、「組織と環境」、そして「組織と学習」という観点で分析します。ケースメソッドを用いたグループワークによって、経営組織を分析する力を身につけることができます。	
経営戦略論 I	本講義は、経営戦略の系譜や流れを理解し、経営を戦略的に捉える基礎的な概念や思考方法を体系的に学びます。外部環境への適応、内部資源の有効活用、予測と一貫性やシナジー創出など、いくつかの重要な概念について学び、ケーススタディとチームスタディによって考察することで、現実的な経営問題を課題解決できる知識を身につけることができます。	
デジタルマーケティング	この授業では、アマゾン、アップル、メルカリ、無印良品など、デジタルマーケティングの具体的な事例を豊富に紹介しながら、デジタルマーケティングの基本的な考え方や概念・理論を説明します。合わせて、テーマに則したニュースの解説やディスカッションを通じてデジタルマーケティングの理解を深めます。この講義を通じて、デジタルマーケティングの理論を体系的に学び、デジタル社会における顧客との関係づくり、競合他社との競争の仕方を考える視座を得ることを目的とします。	
企業論	本講義では、企業制度の発展や株式会社の仕組みを学び、企業の基本的な特徴を理解することを目的とします。特に、多様化が進展し、持続可能で包摂的な社会が実現しつつある現代において、環境リテラシー、労働（働き甲斐）、ジェンダーやマイノリティなどのトピックスについて考察し、現代企業を多角的に捉える視点を身につけることができます。	
消費者行動論	本講義では、消費者が自身の欲求や商品の情報をどのように認識し、どのようなプロセスを経て購買にいたるのか、消費者行動論の知識や用語を学びながら理解することを目的とします。授業では受講生の消費者としての意識や行動について自己分析や考察・ディスカッションを行い、消費者行動を体感的に学びます。消費者行動論の学びによって、マーケティングと消費の相互作用として消費社会の現象について、深い洞察力を身につけます。	

DX論	DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、「データとデジタル技術を活用して、製品やサービス、ビジネスモデルを変革すること」を意味します。この授業では、ネットフリックス、ナイキ、Uberなど、DXの具体的な事例を豊富に紹介しながら、DXの基本的な考え方や概念・理論を説明します。合わせて、テーマに則したニュースの解説やディスカッションを通じてDXの理解を深めます。この講義を通じて、DXの理論を体系的に学び、デジタル社会における様々な変革（トランスフォーメーション）を考える視座を得ることを目的とします。	
心理学	本講義のねらいは、人間の意識や行動を科学的に理解することにあります。心理学の各領域について講義し、心理学がどのような学問であるのかを理解すると同時に、人間のこころを理解することで、自己と他者への理解を深め、良好な人間関係を築くことを目指します。また本講義では、グループワークにおいて、意見交換をしながら相互に理解を深めていきます。講義を通じて、心理学的な基礎知識から、自己や他者を理解する力を身につけることができます。	
ビジネス心理	本講義では、組織の中で働く人のこころを理解するために、個人の問題だけでなく、背景にある産業場面における心理的メカニズムや、組織の人間関係を理解することを目的とします。人が健やかに働いていくことができるよう、基礎的な知見についての講義に加え、協働する他者への支援についても考えます。また本講義では、グループワークにおいて、意見交換をしながら相互に理解を深めていきます。講義を通じて、組織行動に関する理論を理解し、健やかに働くための対処法を考える力を身につけることができます。	
マクロ経済学 I	本講義の狙いは、マクロ経済学の学びを通じて、企業経営や会社実務を大きく左右する国全体の景気動向を知る力を身につけることにあります。講義形式でマクロ経済学の基礎理論を学ぶ。具体的にはGDP、有効需要の原理と様々な乗数、貨幣・金融の仕組み、財市場と資産市場の関係について理解を深めます。当該科目は、経営学部の専門基幹科目として位置づけられ、この学びが専門発展科目であるマクロ経済学Ⅱ、財政学、金融論、国際経済学へと繋がっていきます。	
ミクロ経済学 I	この科目は市場系経済の仕組みである価格調整メカニズムを理解することを目的とする。経済学の基礎となる体系化された分野なので、教科書に基づいた講義を中心に進めます。経済活動を行う消費者（家計）や企業が、どのように消費や生産の意思決定をするのか、また、彼らの経済活動が、モノやサービスの市場の需要、供給、価格の変化とどのように関係するのかを学ぶことで市場メカニズムを理解することができます。それによって、市場メカニズムが必ずしもうまく機能しない様々な状況での問題点や政策的対応についても理解することができます。	
行動経済学	本講義の狙いは、行動経済学の学びを通じて、ビジネスにおける認知や判断の意思決定プロセスを理解し、より良い判断を行う力を身につけることにあります。認知行動と認知的バイアス、プロスペクト理論などの不確実性下の意志決定、心理会計、モチベーションの行動心理、ナッジの設計プロセスについて学ぶ。原則として講義の前半部分は座学、後半部分はグループワークを実施します。当該科目は、経営学部の専門基幹科目として位置づけられ、経営学、マーケティング、心理学の学びと接続していきます。	
流通論	流通は生産と消費をつなぐ活動や構造を指し、その理解は経済社会全体の把握に役立ちます。本講義では流通の発生原理や機能、構造、小売業や卸売業の歴史や基礎知識を座学で学び、グループワークで身近な小売業やネット販売などの実態について考察・ディスカッションを行います。講義全体を通して、流通の観点から今日の生産やマーケティング、消費者のライフスタイルの変化、また流通に関する諸問題を把握する視野を養います。	
サービス産業論	現在、我が国など先進国の産業構造は、その大部分をサービス産業が占めています。産業分類には、多くの業種が入っていますが、本講義では、主に北海道経済と密接な飲食宿泊業等の観光関連サービス業に加え、関連の深い小売業、銀行・運輸業・不動産などについて入門的かつ増加しているニュービジネス的視点に立つことで、サービス産業に対する知識を深めます。講義を通じて、サービス産業全般についての基礎的な知識を身につけることができます。	
観光学	本講義は、地域経済にとって重要な産業である観光について、人口動態、消費者動向、エコツーリズム、地域振興など様々な観点から理解を深めます。観光があてはまる産業は幅が広く、多くが関わりを持っている上に外国人の買い物「見えざる輸出」となって地域振興にとって大きな役割を担っています。このため、地域・商品ブランド戦略、産業育成策などについても知識を深めます。講義を通じて観光と経済の関わり、観光とマーケティングの関係、地域の持続的な成長について理解する力を身につけることができます。	

ビジネスデータサイエンス演習	本講義は、データサイエンス基礎で学んだ分析手法を用いて、連携組織から提供されるビジネスに関連のビッグデータを分析し、その結果を正確に理解できる実践的な技能を身につけることを目的とします。分析ツールとしてはExcelを中心として、必要に応じてより高度なアプリケーション（SPSS等）を利用する。ビジネスに必要な多変量解析、仮説検定、推定などの技能を修得し、データサイエンスの実践力を身につけることができます。	
簿記 I	簿記とは事業活動によって発生するお金や物の流れを、一定のルールに基づき帳簿に記録・整理する技術です。また簿記を理解することによって、企業の経理業務に必要な会計知識だけではなく、財務諸表を読みとく力、経営に関する確かな管理力や分析力が身につきます。そのため、企業の規模の大小や業種を問わず、会社は簿記の知識を持った高い経理能力のある人材を必要としています。本講義では、簿記の基礎を理解し、日商簿記3級に合格することを目指します。	
財務会計	会計は金額という数値を扱う技術でありながらも、本質は考え方であり、ものの見方です。この講義では企業が公表する会計情報を活用できるようになるために、わが国の会計制度と代表的な会計基準を理解することを目指します。ここで、「企業が公表する会計情報」はわが国の法制度における強制開示情報（例えば、有価証券報告書）であり、「会計情報を活用できる」とは企業はどのような会計情報をどのように公表しているのかを知り、入手した会計情報は何を伝えており、それを何に活用できるのかを理解することです。	
民法	この科目では、2年前期に展開される「法学基礎」を前提とした上、取引を含め、日常生活に最も関連の深い「民法」、特に「財産法」の構造を把握することを目的とする。たとえば契約をめぐるトラブルが生じた場合、どのようなスキームを使って問題解決がされるかを理解し、「権利」や「義務」といったヴァーチャルな情報処理の仕方を身につける。	
リーダーシップ開発演習 I	本講義では、豊かな人間関係を構築し、他者と協働できる人材に必要なリーダーシップの基本的な知識とスキルを身につけることを目的とします。グループワークを通じて、自分なりのリーダーシップの発揮の仕方を体感しながら、他者と協働するスキルを身につけることを目標とします。また本講義では、グループで、意見交換をしながら課題を解決するための提案を行うプロジェクトを進めていきます（課題解決型学習）。	
リーダーシップ開発演習 II	本講義では、プロジェクトのプロセスとその運用のための手法と基本的な考え方を学ぶとともに、そこから得られた視点をもとにいくつかのプロジェクト課題を通じた協働によって、リーダーシップを学びます。現代の経営実践で注目されている「デザイン思考」の演習として、「観察と共感」、「課題発見」、「仮説の構築と提案」、「検証・評価」というデザインプロセスを通じて、プロジェクトデザインの手法を体験的に学びます（課題解決型学習）。	
リーダーシップ応用演習	本講義は、1年次の「リーダーシップ開発演習 I・II」で培った「人間関係スキル」と「デザイン思考」を応用し、実際の経営課題に取り組み、協働を促進するリーダーシップを発揮することを目的とします。具体的には、産学連携による課題解決型学習によって、実際の企業サービスで展開する新しいビジネスアイデアを提案し、サービスを構想・計画するプロセスを学びます。またプロジェクトを通じた他者との協働実践によって、経営組織におけるリーダーシップと自身のリーダーシップスタイルについて理解を深めます（課題解決型学習）。	

専門実践科目

専門教育科目

<p>プレゼミナール</p>	<p>本講義の目的は、さまざまな学問分野の特性について知見を深め、自らの問題意識を深く問い、3年次のゼミナール選択及び卒業研究への見通しを持つことを目的とします。本科目は複数教員によるオムニバス形式で行います。各教員によるプレゼンテーションと話題提供から、各学問分野に対する理解を深めるために、学問分類ごとにグループディスカッションを実施します。講義を通じて研究テーマ・ゼミを自律的に選ぶ力を身につけることができます。グループディスカッションを行い、互いの意見を聞き合うことでより深く多角的な視野から各分野の特性について知ることを目指します。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 明田川知美/全3回)</p> <p>第1回講義において講義ガイダンスを実施し、科目の概要と各回のディスカッションの方法について説明します。また第14回、第15回の講義において、講義全体のふりかえりによって、各自の研究課題の設定および専門ゼミナールの選択を実施します。</p> <p>(3 井原久光・4 大平義隆・6 近藤公彦・11 伊藤祥子/全1回) (共同)</p> <p>第2回講義において、各専門ゼミナールの紹介をするとともに、経営学とマーケティングの現在と今日的課題について探究します。</p> <p>(5 吉地望・7 佐藤郁夫・16 木下なつき/全1回) (共同)</p> <p>第3回講義において、各専門ゼミナールの紹介をするとともに、経済学の歴史の変遷と今日的課題について探究します。</p> <p>(2 池田 清治・8 米山祐司/全1回) (共同)</p> <p>第4回講義において、各専門ゼミナールの紹介をするとともに、法学と会計学の知見によって経営にかかわる制度面の今日的課題について探究します。</p> <p>(14 渡邊泰宏・17 ガルツング・18 エンゾ・19 全1回) (共同)</p> <p>第5回講義において、各専門ゼミナールの紹介をするとともに、経営学における組織や人事制度の今日的課題について探究します。</p> <p>(3 井原久光・4 大平義隆・6 近藤公彦・11 伊藤祥子・14 渡邊泰宏・15 明田川知美・17 ガルツング・18 エンゾ/全1回) (共同)</p> <p>第6回講義はグループ演習①を実施し、第2回～第5回までの講義をふまえて、経営学・マーケティング分野の課題についてのディスカッションを行い、各学生の問題関心についての理解を深めます。</p> <p>(2 池田 清治・5 吉地望・7 佐藤郁夫・8 米山祐司・16 木下なつき/全1回) (共同)</p> <p>第7回講義はグループ演習②を実施し、第2回～第5回までの講義をふまえて、経済学・法学・会計学分野の課題についてのディスカッションを行い、各学生の問題関心についての理解を深めます。</p> <p>(13 宮本知加子・18 館石和香葉/全1回) (共同)</p> <p>第8回講義において、各専門ゼミナールの紹介をするとともに、心理学、社会心理学分野における今日的課題について探究します。</p> <p>(10 板谷初子・15 明田川知美/全1回) (共同)</p> <p>第9回講義において、各専門ゼミナールの紹介をするとともに、人文系分野の知見から、経営と多文化共生における今日的課題について探究します。</p> <p>(9 若林尚樹/全1回)</p> <p>第10回講義において、専門ゼミナールの紹介をするとともに、デザイン学の知見から、経営とデザインにおける今日的課題について探究します。</p> <p>(12 畦原宗之/全1回)</p> <p>第11回講義において、専門ゼミナールの紹介をするとともに、情報学の知見から、経営と情報における今日的課題について探究します。</p> <p>(10 板谷初子・13 宮本知加子・15 明田川知美・18 館石和香葉/全1回) (共同)</p> <p>第12回講義はグループ演習③を実施し、第8、9回の講義をふまえて、心理学、言語学、教育学の観点から経営につながる課題について学際的なディスカッションを行い、各学生の問題関心についての理解を深めます。</p> <p>(9 若林尚樹・12 畦原宗之・15 明田川知美/全1回) (共同)</p> <p>第13回講義はグループ演習④を実施し、第10、11回の講義をふまえて、デザイン学、情報学の観点から経営につながる課題について学際的なディスカッションを行い、各学生の問題関心についての理解を深めます。</p>	<p>オムニバス・共同 (一部)</p>
<p>ファシリテーション入門</p>	<p>現代社会における複雑な問題を解決するためには、多様な立場の人と協働しながら物事を進めていく力が求められます。本講義では、協働を促進するためのファシリテーションについて、概念的な理解に加え、実践を行いながら、ファシリテーターとしての役割が取れるようになることを目指します。1年次の「リーダーシップ開発演習Ⅰ」の授業に入りファシリテーションを実践し、振り返りを行うことで理解を深めます。また本講義では、グループワークにおいて、意見交換をしながら相互に理解を深めています。</p>	
<p>経営組織論Ⅱ</p>	<p>本講義は、「経営組織論Ⅰ」で展開された経営組織の基礎をふまえ、複雑化する現代の経営組織を理解するためのフレームワークを学ぶことで、組織と人の管理についてより深く探究します。具体的には、組織行動、意思決定、組織学習、組織文化、組織変革、知識創造などの発展的なトピックスによって組織を考察し、企業に限らず多様な組織を捉え・分析する力を身につけることで、人と組織を発展させるための知識を身につけます。</p>	

経営戦略論Ⅱ	本講義は、「経営戦略論Ⅰ」で展開された経営戦略の基礎をふまえ、競争優位を確立するための経営戦略としてイノベーションに焦点をあてる。イノベーションとは、「技術革新」と一般には理解されているが、必ずしも技術だけではなく、「社会に持続した発展をもたらす人間の創造的活動」のことを指す。本講義では、新しいアイデア（技術、製品、工程等）の事業化・商業化にかかわるイノベーションプロセスについて体系的に学び、現実的な経営問題を課題解決できる知識を身につける。	
マーケティング・コミュニケーション	本講義ではマーケティング論の一分野であるマーケティング・コミュニケーションの基礎を学びます。マーケティング戦略上のコミュニケーションやプロモーション、広告のしくみと実態を学ぶことで、マーケティング論をより深く理解でき、現実社会の多様な情報やメッセージを商業的な文脈で読み解くことができるようになることを目標とします。講義形式で基礎的な内容を学んだ後、グループワークで企業の事例や身近な事例をもとに考察やディスカッションを行い、理解を深めます。	
教育経営論	本科目は、教育経営論の基本となる考え方と知識を獲得し、NPOや社会教育団体等における持続可能な運営のあり方について考察する力をつけることを目指します。コミュニティビジネスにおける大きな課題として「①質の保証と社会的認証、②安定した財源の獲得、③独立性の担保」があります。講義では、ディスカッションやグループワークなどアクティブラーニングを取り入れ、NPO団体等の持続可能な運営のあり方とは何かを考えていきます。	
人的資源管理論	本講義では、現代日本企業における人的資源管理の様々な課題について考察するだけでなく、国際的な視点で人的資源管理の現状と問題点について学ぶことを目的とします。経営学における最も大切な資源の1つである「ヒト」の多様性について知ることで、個人のキャリア形成にも役立つ知識を身につけることができます。またケーススタディ、グループワーク、ディスカッションを行うことにより、ワークライフバランスや女性活躍社会について個々の考えを深め、多面的に捉える視点を身につけることができます。	
経営倫理	現代の企業は、社会的器官とよばれるほど、われわれの社会に欠かせない存在となっています。CSRや社会貢献の高まりとともに、企業活動の責任範囲は広がり、企業にはより積極的な社会貢献が求められるようになりました。しかし、企業の反倫理的な行動はたびたび議論され、企業不祥事とよばれる事件も後を絶ちません。この講義においては、社会における倫理観の変遷をふまえ、企業や従業員に求められる倫理的行動について考察します。講義で学んだ知識やそれぞれの経験をもとにディベートを実施することで、ビジネスの倫理的課題を発見し、考察・分析する視点を身につけることができます。	
経営史	本講義は、現代の経営学の大きな潮流の一つとなっているアメリカ経営学への理解を深めるために、その成立過程を時代背景とともに歴史的に考察することを目的とします。特に経営史家A・D・チャンドラーJr.の「組織と戦略」の理論を基盤にアメリカ大企業組織、いわゆる事業部制組織の誕生についてケーススタディから学びます。また、大企業の社会的インパクトを理解するために人々のライフスタイルや価値観など多面的視点から考察します。後半にはヨーロッパ・日本の企業事例も踏まえ、歴史的存在としての「大企業」を理解します。本講義を通じて日欧米の大企業についての歴史観を身につけることができます。	
グローバル経営論	本講義は、グローバル化が進む経済環境において、グローバル企業の展開方法を学ぶことによって、経営の国際化についての視点を養うことを目的とします。本講義では、グローバル企業にかかわる理論だけでなく、現実の企業活動や現場の知恵が融合／先行しながら発展してきたことを理解するためにケースも活用します。最近では、起業と同時にグローバル適応するボーン・グローバル企業やローカル適応型と考えられていたインフラ産業や農業でも国際化が進んでおり、理論と実像の両面から学んでいきます。	
ベンチャービジネス論	現在我が国では地域創生が重要課題として目されており、地域で活躍する人材の育成が、大学に課せられた大きな使命となっています。本講義では、ベンチャービジネスをテーマに、起業するとはどういうことかについて実践的に学びます。特にビジネスプランの設計や評価方法を中心に理論を学び、具体的なビジネスプランを計画することで、起業に必要な知識、構想力や創造力を身につけます。	
コミュニティビジネス論	現在我が国では地域創生が重要課題として目されており、地域で活躍する人材の育成が、大学に課せられた大きな使命となっています。本講義では、ごく小さく、社会性のあるビジネスをコミュニティビジネスと捉え、その可能性や課題について学びます。特に、地域活性化を目的とした様々な事業を展開する道内企業の事例を考察・分析することで知識を身につけます。また自らこれを企画する機会を体験し、地域を担える人材になるための知識と感性を身につけます。	

コーポレートガバナンス論	近年では企業を取り巻く環境変化に合わせて、そのステークホルダーも多様になり、企業はそれぞれの主体に対して責任や貢献を求められるようになりました。一方、企業の不祥事が頻発し、大きな社会問題となっていることからコーポレートガバナンス（企業統治）に対する関心が高まっています。本講義では、コーポレートガバナンスの課題を理解し、制度的な側面からコーポレートガバナンスの枠組みを理解することを目的とします。会社制度の発展の歴史、株式会社の構造と統治機構をふまえ、株主主権や経営者支配について考察することで、現代企業に対する深い洞察力を身につけます。	
社会心理学	本講義は、社会心理学分野の知見を学ぶことにより、社会や人の心、およびそれらのつながりへの理解を深めることを目的とします。講義の中で、日常生活の疑問や社会問題を取り上げ、それらの要因を社会心理学分野の研究から考察します。授業は講師による講義の後、各コマのテーマに関するディスカッションを小グループで行ってもらい、学生が主体的に授業に参加する機会をもうける。講義を通して社会心理学の基礎的な知見を身につけることができます。	
心理学研究法	本講義は、心理学を研究する上で必須である統計的知識を身につけることを目的とする。講義では、基礎統計量の算出から、統計的検定まで心理統計学の基礎を解説します。加えて、HAD（フリーのエクセル統計プログラム）を用いて、実際に受講者がデータを分析する実践型の講義も実施します。これらの講義を通して、心理統計学に関する理解を深めるとともに、分析方法、データを扱う際の留意点なども学ぶことができます。講義を通して心理学に必要な基礎的な統計知識を身につけることができます。	
デザイン論	現在のデザインへとつながるこれまでのさまざまな試みやデザイン理論、デザイナーたちの実践を多くの事例から学び、デザインの構造を多角的に理解します。生活用品からコミュニケーション、対話のデザインなどさまざまな分野の様式的特徴を概観し、それらが生じた背景といった社会的要因や思想といった文化的要因と照らしデザインを多角的に分析・考察することで、現代やこれからの時代におけるデザインの課題と可能性を認識し、経営という視点からそれぞれの専門性の学びを進めていくうえで、必要となるデザイン分野の基礎的な知識を身につけることができます。	
データサイエンス・AI応用	今日の社会ではデータサイエンス・AI技術を道具として活用することで、売上の向上、顧客の獲得、コスト削減など、多様な経営面への応用が期待される。本講義ではプロジェクト課題を通してデータサイエンス・AIの応用事例を実際に企画、実施する方法を学ぶ。授業ではテーマ別に複数のプロジェクト課題が課され、必要な各技術・手法を学んだ後、受講者が実施し、結果を報告する。授業を通じて、データサイエンス・AI技術の総合的な応用方法を理解し、データを分析し、結果をプレゼンテーションできることを目指す。	
ウェブデザイン演習	本講義は、私たちが日常的に目にするウェブページ（ウェブサイト）のデザインや構成について学び、ユーザーに適切な情報を発信するための知識とスキルを学ぶことを目的とします。具体的には、ウェブマーケティングの知識をふまえながら、バナー広告の制作や、ウェブサイトのワイヤフレームの制作をします。また制作過程で、PhotoshopやIllustratorの技術を学びます。ユーザーに適切な情報を発信するためのウェブページ作成技術を身につけることができます。	
デザイン表現演習	デザイン表現の基本となる伝えたい想いをメッセージとして言語化、ビジュアル化、シンボル化する基礎的な手法を理解し、それとともにデザインとしての表現の可能性を広げ、伝わる表現にするための法則を学ぶ。また、デザインのプロセスを通して、デザイン思考のアプローチを体験的に学びながら、その背景にあるヒトとモノとコトの関係に着目したメッセージやユーザー体験を含んだコミュニケーションデザインとして、企画・提案する力を身につけることができます。	
マクロ経済学Ⅱ	本講義の狙いは、マクロ経済学の学びを通じて、企業経営や会社実務を大きく左右する国全体の景気動向を知る力を身につけることにあります。講義形式でマクロ経済学の基礎理論を学びます。具体的には、経済政策のGDP、利子、雇用に与える影響、労働市場における失業と物価上昇率の関係、経済成長の源泉と成長会計、国際収支表が為替レートの与える影響を学びます。経営学部の専門基幹科目として位置づけられ、この学びが専門発展科目である財政学、金融論、国際経済学へと繋がっていきます。	
ミクロ経済学Ⅱ	この科目はミクロ経済学Ⅰで学んだ基礎理論を踏まえて、さらに進んだ分析枠組みであるゲーム理論と情報の経済学の基礎理論を学びます。それらを使って個々の経済主体の行動だけではなく、市場と企業組織の違いや組織内部の仕組みについて分析する組織の経済学の基礎理論も学びます。この3つの理論やそれらに基づく公共政策は最近のミクロ経済学の一部として体系化されており、教科書に基づいた講義を中心に進めます。	

財政学	予算を通じた政府の経済活動である財政には、歳出（予算を通じた支出）と歳入（主に税収）の2つの側面があります。本講義では、国の予算と社会保障、税の制度（しくみ）を学ぶことを通じて、講義受講者が税財政について考えていくための基礎材料を提供し、税財政が現代経済とどのようにかわり、どのような役割を果たしているかを学びます。そして、わが国の税財政の理屈、しくみ、現状、問題点などを把握し、税財政に対する課題を企業経営や自身の生活に関わらせて考察できるようになる力を身につけることができます。	
国際経済学	本講義では、国際経済の仕組み、現状とさまざまな課題を説明し、国際経済の現状と将来に対して関心を持ってもらい興味を喚起することで、自分自身の問題として国際経済の諸問題を考えるための知識を身につけてもらうことを目的としています。そのために、貿易論を中心として自由貿易、保護貿易、貿易収支不均衡、国際要素移動が雇用・賃金・所得分配に与える影響、地域間貿易協定、先進国・途上国・移行経済や新興国経済の現状と課題について学びます。貿易を通じて国際社会における相互関係を学ぶことで、国際社会における多様な価値観や世界観の存在を理解する力を身につけることができます。	
金融論	本講義では、まずは金融の基本について、金融のはたす役割・機能に基づき整理し、全てにかかわる金融仲介機関である銀行の機能と脆弱性について学びます。そして、金融経済の血液として、企業・家計・政府において非常に重要な役割を果たしている証券取引について学びます。証券の仕組みと役割を学ぶとともに、株式投資の模擬実習「株式学習ゲーム」を通じて、株式相場と社会・経済の動きとの関連性、企業の評価等を学びます。講義を通じて金融全般についての基礎的な知識を身につけることができます。	
簿記Ⅱ	本講義は、「簿記Ⅰ」の学習内容をふまえ、日商簿記2級の資格取得出来る能力の養成を目的とします。複式簿記は、企業規模の大小や業種・業態を問わずに、日々の経営活動を記録・計算・整理して、財政状態と経営成績を明らかにするための技能です。簿記を理解することによって、企業の経理業務に必要な会計知識だけでなく、財務諸表を読みとく力、経営に関する確かな管理力や分析力が身につきます。この授業では簿記の仕訳と転記を中心に理解を深めていきます。	
財務分析	現在の経済社会では、企業が公表する会計情報から企業の現状と成果を評価し、この評価をもとに種々の意思決定が行われます。この講義では、企業が公表する会計数値から企業がどのような状況にあり、どのような成果を上げているのかをいかに読み取るか、その技法と視点、その解釈の仕方を学びます。講義の中では、講義で学んだ分析手法を用いて各自が選定した企業の分析を行い、報告してもらいます。本講義を通じて、企業の財務分析する力が身につきます。	
管理会計	本講義では、会計数値を用いた経営管理である管理会計（マネジメント・アカウンティング）についての理論と具体的な手法についての知識を修得することを目的とします。具体的に、管理会計は企業の経営方針や経営戦略を実現するために、計画を立て、その計画を実施し、結果をチェックし、必要に応じて業務改善をする、といった一連の経営管理（PDCAサイクル）に密接に関係しています。本講義では、管理会計に関する理論や具体的な手法などに関して、企業の経営実務の具体的な事例にふれながら学びます。	
取引法・消費者法	この科目では、3年前期に展開される「民法」を前提とした上、特に取引において実際に生じる問題を理解し、その解決方法を身につける。また、取引には、家族が関係することもあることから、家族法も取り上げるほか、消費者契約法を代表とする消費者関連法制や紛争解決のシステムも対象とする。	
3年専門ゼミナール	経営学に関連する幅広い分野の専門ゼミナールにおいて、各自の問題関心にしたがったゼミナールに所属し、フィールドワークやグループディスカッションなどの方法によって、主体的に自身の問題関心を深め、卒業論文へとつなげていくことを目的とします。フィールドに出て感性を働かせながら対象にアプローチするのみならず、1・2年次に学んだ基礎理論をふまえ、文献購読や資料収集及び事例分析によって、研究の基礎をつくりまします。現代社会が抱える諸問題に対して、広い視野で分析を行い、またゼミナール活動のなかで、他者と協働しながらゼミナールの研究課題に取り組むことで、構想力と実践力を養うことを目標とします。	
4年専門ゼミナール（卒業論文含む）	3年専門ゼミナールにおいて探究した研究内容について、継続して取り組むことで研究の深化を図り、大学4年間の学びの集大成として卒業論文に取り組むことで、総合的な知識・思考力を高めます。またゼミナールを3年専門ゼミナールとの共同実施によって、学年をこえた相互の学習機会を創出し、フィールドワークやグループディスカッションなどの方法によって、他者と協働しながらゼミナールの研究課題に取り組むことで、構想力と実践力を養います。	

学校法人 北海道武蔵女子学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和 5 年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

北海道武蔵女子短期大学			
教養学科	200	—	400
英文学科	100	—	200
経済学科	80	—	160
計	380	—	760

令和 6 年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

変更の事由

北海道武蔵女子大学			大学新設
経営学部			3年次
経営学科	80	5	330
計			3年次
	80	5	330
北海道武蔵女子短期大学			
教養学科	200	—	400
英文学科	100	—	200
	0	—	0
計	300	—	600

令和 6 年 4 月学生募集停止